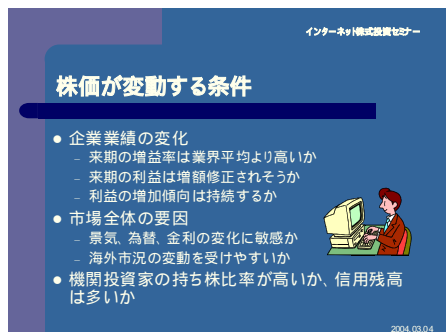


インターネット株式投資術 実践コース

1. 株価が変動する条件はなにか



1年に株価が2倍や3倍に値上がりする銘柄もあれば、2分の1、3分の1に値下がりする銘柄もあります。また、一日に10円、20円と株価が動くことも珍しくありません。

このように株価が変動するから株式投資によって利益を生んだり、損失を出したりするのです。なぜ株価が変動するのか、その条件を探り当てれば株式投資に成功するはずで

(1) 企業業績の変化に注目

次のような銘柄を選んで投資します。

- 来期の(経常)利益の増え方は業界平均よりも高い
- 来期の(経常)利益は予想を上回りそう
- 来期以降も(経常)利益の増加傾向は持続するだろう

(2) 株式市場全体の動きとの関係を見る

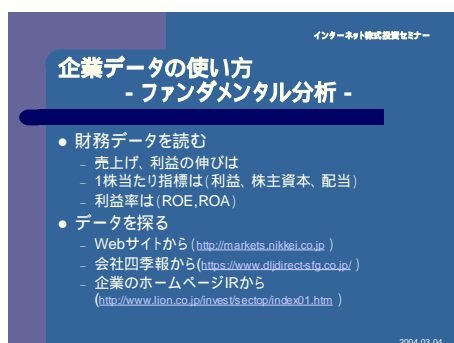
個々の銘柄が市場全体とどのような関係かを確認する

- 景気(設備投資、在庫投資、輸出)に関連した銘柄か、為替の変化に影響されやすいか
- 海外市場でも取引されていて海外市場の変動に敏感に反応するか

(3) 株式需給関係を確認する

- 国内機関投資家や外人の保有株式数が多いか
- 信用取引の買い残高と売り残高の比率はどうか

2. 財務データを使ってファンダメンタル分析



企業業績とは毎決算期ごとに発表される企業の成績表です。売上げや利益、配当金は損益計算書に、資本金や借入金は貸借対照表に記載され、決算期が終わってから2ヶ月ほど遅れて新聞紙上に発表されます。また、そのときに次の決算期の予想数字も発表されます。中間決算を採用している会社は本決算のほかに6ヶ月目に中間決算を、さらに、四半期毎に途中経過が発表されています。

(1) 財務データを読む

- 売上げや利益の伸びは予想通りだろうか?
- 1株当たり利益(EPS)、1株当たり純資産(BPS)、1株当たり配当金は増えるか?

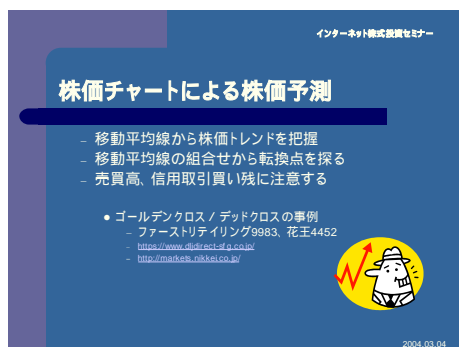
- 利益率（売上高利益率、株主資本利益率、総資産利益率）の推移はどうか？

(2) データをとる

企業の財務データはいろいろな方法で入手できます。

- 金融市場関連のウェブサイトから
- 証券会社の情報サービス（会社四季報）から
- 企業のホームページ（IR情報）から

3. 株価チャートによる株価予測



中長期的に見ると株価は業績の推移を反映して変動することが分かります。しかし、より短期的には人気の行き過ぎや、不安の広がりなどで株価がオーバーシュートすることがよくあります。こうした、投資家心理を分析するために株価のチャートを分析して将来の株価を予測します。これを、テクニカル分析と呼んでファンダメンタル分析と対比します。

(1) 移動平均線から株価トレンドを把握する



- 上昇トレンドの元では押し目買い
長期移動平均線上昇、中期移動平均線上昇、短期移動平均線上昇 当日株価は長期移動平均線を割り込まない
- 下降トレンドの元では戻り売り
長期移動平均線下降、中期移動平均線下降、短期移動平均線下降 当日株価は長期移動平均線を抜ききれない

(2) 移動平均線の組合せから転換点を探る



- ゴールデンクロス 長期移動平均線が下げ止まりから横ばいへ、中期移動平均線が上昇、短期移動平均線が中期移動平均線を下から上へクロスする 株価は上昇トレンドへ転換
- デッドクロス 長期移動平均線が上昇トレンドから横ばいへ、中期移動平均線が下降、短期移動平均線が中期移動平均線を上から下へクロスする 株価は下降トレンドへ

転換


4. 派生商品の活用

インターネット株式投資セミナー

派生商品の活用

- 小額投資で大きな利益
- 株価が上がっても下がっても利益が出る
- 信用取引に近い短期投資
- 取扱証券会社、取扱銘柄が限定される

- ゴールドマンサックス証券
http://www.gs.com/japan/warrant/index_bg.html
- DLJ証券 <https://www.dlirect.co.jp/>
- チャートで売買タイミングを計る



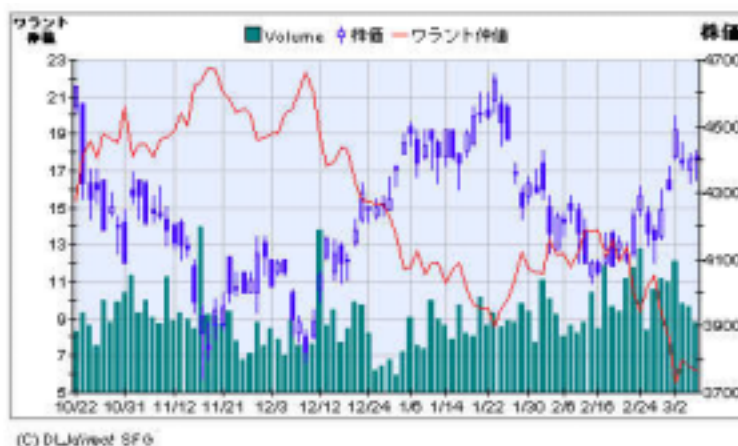
2004.03.04

株式投資の魅力はリスクを取りながら大きなリターンが期待できることです。反対に債券投資はローリスク、ローリターンを求める資金の運用に向いています。株式投資のリスクを最小化することを目的に開発されたのが派生商品取引で具体的には、フューチャーやオプションです。個人投資家が利用できるのが e ワラントという商品名のオプション取引です。この e ワラントの特徴を並べると

- 小額資金の投資で大きな利益を得る可能性があり、損失も限定される
 - 株価が上がっても、下がっても利益を得ることができる
 - 信用取引に似て値動きの軽い銘柄の短期投資に向いている
 - 上場有価証券ではないので、取扱証券会社が限られ、取扱銘柄も限定される
 - 株式市場の取引終了後の夜間まで値動きがある
- (1) 二つのタイプ「コール」と「プット」
- コール型の e ワラントは原資産（株式や為替）が上がったら利益が出るタイプ



- 反対に原資産が下がったら利益の出るタイプがプット



(2) ワラントの選び方

- 株価（原資産）の先行きを予測してコールまたはプットを選ぶ
 - 権利行使価格、満期期日を比較して銘柄を決める
 - プレミアム、ギアリング、デルタなどで割高、割安、変動の振れを比較する
- （3）よくある失敗例
- 満期間近のものは値動きが少ない
 - 1円未満の安いものは危険
 - 権利行使価格が離れすぎているものは株価に反応しない

以上